

旅游 のことなど

旅行

7、80年代の中国人にとって、「海外旅行」は辞書にも載っていないと言っていいほどの夢のような言葉でした。現在では、パリ、ローマ、ロンドンなどの観光都市はもちろん、ギリシャのアテネやチェコのプラハ、日本の白川郷などちょっと通好みの所でも中国人旅行者の姿が見られます。2017年の中国の出国人数はのべ6億人、すごい勢いで増えています。

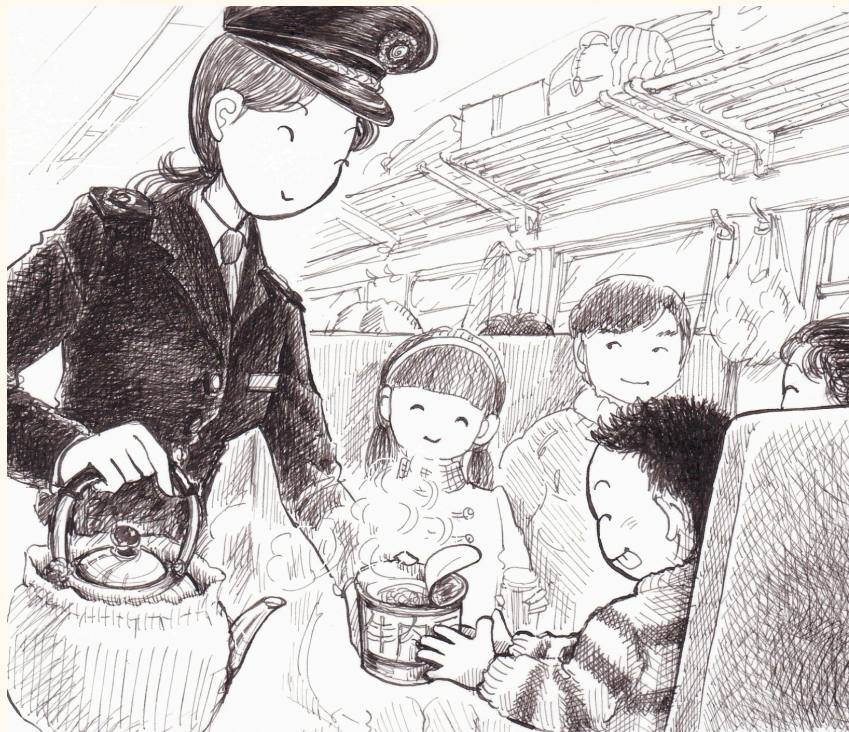
中国でまず国内旅行のブームが起きたのは、1990年代後半。それ以前は、メーデーや国慶節の長期休暇がありませんでしたし、経済的にも余裕がありませんでした。多くの人は出張の機会にちょっと空いた時間を使って、その地方の名所旧跡を回る程度でした。その後、収入も増え、交通手段が整うにつれて、徐々に国内旅行が一般的になってきましたが、初めのうちはチケットを手に入れるのも一苦勞でした。旅行シーズンには駅の窓口に長蛇の列ができ、やっと自分の番だと思ったら“没票了！（売り切れ！）”の一言。今ならスマホのアプリを使ってネットで購入して、当日改札で身分証をタッチするだけで済むんですけどね。

便利さ、快適さではかきませんが、不便でも昔ながらの長距離列車の旅が好きという人もいます。長距離列車の場合、乗車するとまず車掌がチケットを回収します。夜中に駅に着くこともありますから、乗客が乗り過ごさないようチケットを確認して起こしてあげるんですね。それから、車中で24時間お湯が提供されています。自由にお茶を入れたり、カップ麺を食べたりできるんです。“硬卧（普通寝台）”は、上段、中段、下段に分かれているのですが、上段の人は天井が低いので横になるしかありません。そこで、下の段に降りて行って、乗り合わせた人とおしゃべりが始まるんです。初対面の人が狭い車内でお茶を飲みながらいろいろな話題について語り合い、そしてひとたび列車を降りれば、それぞれ荷物を手に各地に散っていく。そんな光景は、今も昔も変わりません。

さて、次は海外旅行ですが、1990年代以前は、留学、親戚訪問、公用などの理由がないとパスポートの申請ができませんでした。その後、まず“新加坡（シンガポール）”、“马来西亚（マレーシア）”、“泰国（タイ）”などいくつかの国のビザが取れるようになり、パスポートを取得して団体旅行ができるようになりました。いわゆる“新马泰游”です。90年代末になると、“新马泰”に“香港”と“澳门（マカオ）”を加えた“新马泰港澳”、ちょっと贅沢なヨーロッパや日本への旅行も出てきました。そのころ、新聞の全面広告に出ている旅行特集を見て、この数年の変化の大きさをしみじみと感じた覚えがあります。

それからまた20年も経たずに、現在のような状況になったのです。日本でも一時期中国人観光客の「爆買い」がずいぶん話題になりましたが、今はもう様子が違いますね。「もう、何回も来たから……」とスタンダードなコース以外を個人で訪れる人も増えました。スキーをしたい、茶道を体験したい、美術館を巡りたい、唐招提寺など中国ゆかりの建物を見学したい（この時代の建造物は中国に余り残っていないので貴重なんです！）、など目的もさまざまです。「中国人のいない所に行きたい」なんて話も聞きますね。ある日本の友達に、JR水郡線袋田駅で二人連れの若い中国人旅行者に出会ったそうです。袋田の滝を見て、袋田温泉につかるんでしょうかね！

今回は、昔ながらの国内旅行の様子がうかがえるお話を紹介します。短いから2つです（笑）。



上车₁睡觉，下车尿₂尿，到景点拍照，回家什么都不知道。

- 1 车 chē：状況によって、自動車、自転車、列車など。ここでは長距離バス
- 2 尿 niào：小便をする。トイレに行く

*

バスに乗ったらウトウト、バスが止まったらトイレに直行。
撮影スポットでいっぱいシャッター押して、
家に帰っているいろいろ聞かれても……なんも覚えてない。

长途旅行的时候，我喜欢随身带一本厚厚的小说。在熙熙攘攘₁的火车上，在偏僻₂幽静的小旅馆里，我都可以把书从背包里掏出来，压₃泡面盖儿₄。

- 1 熙熙攘攘 xīxīrǎngrǎng：人が多くにぎわう様子
- 2 偏僻 piānpì：辺鄙な。中心部から離れている
- 3 压 yā：押さえる
- 4 泡面盖儿 pàomiàngàier：カップ麺のふた

*

長い旅に出るとき、私は分厚い小説をいつも荷物に入れて行く。ごった返しの列車の中でも、町の外れの静かな旅館でも、リュックから本を取り出し、お湯を入れたカップ麺の蓋の上に載せる。